

高等小學書方手本 第二學年用下乙種

K140.72
2.12
2下b

K140.72

2.12

2下b



高等

小學書キ方手本

第二學年用下乙種

文部省

かけまゝも畏れどよの天皇
皇后南陛下の春秋に富ませ
給ひて竹の園草の春とてめで

茂りしつゝおとせおはば大地
と記りたるおの國の春もおも
はれて黄一とておからずや。

特別保護建造物。

鳳凰堂。莊嚴華麗。

資。金。融。通。抵。當。位。

五

五

五

利。高。步。購。買。販。賣。

六

畫翰。返。信。執。筆。管。

詩二十七

潔。潔。要。慰。心。撻。撻。

詩二十八

拜啓至急御相談お願度儀
これあり明後日午後二時

九

高二十

貴同被度お出都合如何にや
折返し此一報致上る事

高二十

+

御手紙の趣領承は
終日在電書付中上致旨

十一

書二七

河東清東東下之礼度

敬具

十二

書二七

家今为国死。死不肯买亲。
怒とて地事。哉。貴在の神。

親おもしろくもなす。親を
心のあつたる可い。神に。

關稅稅率從量從

十五

關稅

價協定雙務片務。

關稅

十六

燕。趙。韓。魏。齊。楚。秦。

漢。晉。唐。宋。元。明。清。

拜啓先達は糸堂色く馬馳走に相成り
有り難く御禮申上其の際古約束致寄
附金別紙為替を以て送送り申上旨申
ながら然るべく馬取計下されたく敬具

御手紙お見仕る過日馬光来の節は何の
風情もこれなく失礼致の由封入の為替早速
先方へ相渡し別紙領收證書送り申上旨
直落書下されたり先は要用のみぞ

東岸西岸之梅亦殊不同。

東岸西岸之梅亦殊不同。

權利。義務。遵奉。違。

犯。制。裁。訴。訟。辯。護。

救世濟民奮鬥努力

二十五

力宥怒愛撫慰藉

高二十七

二十六

庭の若草茂り合ひ青柳絲を亂りつ池
の浮草は波に漂ひて錦を曝すかとあや
またる。中島の松にかれる藤波の紫に咲

ける色青葉まじりの遅櫻初花よりも珍
しく岸の山吹咲乱れ、重立つ雲の絶間より
山時鳥の一聲も君の御幸を待顔なり。

履歷書

何縣何郡何村何番地
何縣平民伊平長男

矢野市太郎

明治二十七年三月三日生

一明治三十三年四月何縣何郡何村尋常高等小學

校ニ入學シ四十一年三月卒業

一明治四十一年四月ヨリ近藤商店ニ雇ヒ引續キ
勤務

一賞罰ナシ

右ノ通ニ候也

大正元年十月一日

右

矢野市太郎

沈着。敏捷。率直。敦厚。

輕躁。遲鈍。執拗。浮薄。

朕惟フニ我カ皇祖皇宗國ヲ肇ルコト宏遠ニ
徳ヲ樹ルコト深厚ナリ我カ臣民克ク忠ニ克ク
孝ニ億兆心ヲニシテ世々厥ノ美ヲ濟セル此レ我カ

國體ノ精華ニシテ教育ノ淵源亦實ニ此ニ存ス
爾臣民父母ニ孝ニ兄弟ニ友ニ夫婦相和シ朋友
相信シ恭儉己レヲ持シ博愛衆ニ及ホシ學ヲ修メ

業ヲ習ヒ以テ智能ヲ啓發シ德器ヲ成就シ進テ
公益ヲ廣メ世務ヲ開キ常ニ國憲ヲ重シ國法ヲ遵ヒ
一旦緩急アレハ義勇公ニ奉シ以テ天壤無窮ノ

皇運ヲ扶翼スヘシ是ノ如キハ獨リ朕カ忠良ノ
臣民タルノミナラス又以テ爾祖先ノ遺風ヲ顯
彰スルニ足ラン

斯ノ道ハ實ニ我カ皇祖皇宗ノ遺訓ニシテ子孫
臣民ノ俱ニ遵守スヘキ所之ヲ古今ニ通シテ
謬ラス之ヲ中外ニ施シテ悖ラス朕爾臣民ト俱ニ

拳々服膺シテ咸其徳ヲニセンコトヲ庶幾フ
明治二十三年十月三十日

御名御璽

Y140172-2.12
-82下8

大大大大
正正正正
四四四四
年年年年
四四四四
月月月月
十七
十一



著作權所有
日修
日正
日發
日印
日刷
日行

大正四年四月十二日
文部省檢査濟

發賣所

東京市日本橋區新地十六番地
株式會社

高等小學書
第二學年用之種

定價參錢

文部
板倉部
東京書籍株式會社
東京市小石川區指ヶ谷町百三十六番地
代表者 原亮
東京市日本橋區通一丁目拾九番地
大倉保五郎
東京市京橋區新榮町五丁目七番地
大倉保五郎
國定教科書共同販賣所

國定教科書共同販賣所

